

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
日本電子専門学校	昭和51年9月10日	杉浦 敦司	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人電子学園	昭和38年12月17日	多 忠貴	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工業専門課程	Webデザイン科	平成18(2006)年度	-	平成25(2013)年度																														
学科の目的	クライアントの要求に応じた商用のWebサイトやWebアプリケーション、Webサービスの企画・設計・実装が出来る実践的なWebクリエイター(Webディレクター、Webデザイナー、UI/UXデザイナー、UXエンジニア、フロントエンドエンジニア、サーバーサイドエンジニア)の育成を目的としています。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】 色彩検定／情報デザイン試験／ウェブデザイン技能検定／ビジネス能力検定(B検) 【在学状況】 令和6年4月1日時点において、在学者69名(令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者65名(令和7年3月31日卒業者を含む)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間	420 単位時間	240 単位時間	1,050 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																											
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
60人	73人	30人	41%	6%																															
就職等の状況	■卒業者数(C) : 27人 ■就職希望者数(D) : 27人 ■就職者数(E) : 25人 ■地元就職者数(F) : 25人 ■就職率(E/D) : 93% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 93% ■進学者数 : 0人 ■その他 : 就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社Log Tech、株式会社ミツエーリンクス、株式会社ジェイクル、株式会社サードウェーブ、株式会社ブランジスタソリューション、株式会社ベルーナ、株式会社スプリング、株式会社7's Blue、株式会社メロンボックス、株式会社ライセンスアカデミー、株式会社TOB、株式会社Mountain Bull、株式会社ビットエー、株式会社コムス、株式会社ZION、2plus株式会社、株式会社MISTsolution、株式会社ティルウィンドシステム、遠達株式会社、株式会社イー・サポート、株式会社BeGoodJapan																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価・有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構 受審年月: 令和5年3月31日 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/																																		
当該学科のホームページURL	https://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,710 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>270 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,710 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>270 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,710 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,710 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	1,710 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	1,710 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>2人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	4人																																		
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
 - ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
 - ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
 - ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。
- 上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
久山 和宣	株式会社ベースメントファクトリープロダクション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 敦司	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
小山内 靖美	日本電子専門学校 Webデザイン科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月6日 14:00～16:00 開催

第2回 令和7年3月14日 14:00～16:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

次年度、プログラムの授業を進めるうえで、学生個々の進捗や理解度に基づいた課題の提供や学生のコードに即座にフィードバックされる手助け、また、最新の技術やトレンドに対応するためにAIを活用することを前提にして授業内容を考えています。現状では、学生のほうが教員よりもAIを含む新しいプログラミング手法やフレームワーク、AIを活用した開発の仕方に興味をもち、自主的に新しいプロジェクトでAIを活用したプログラム開発に挑戦しています。

会社内の業務において、エンジニアだけでなく、デザイナー、ディレクター職種の方がAIを活用しているシーンを紹介していただきたいです。また、専門学校として、AIを導入した授業を展開する際に、どのようなことに気を付けたいのかアドバイスをお願い致します。

【意見】

- ・業務の中で報告書やレポートの作成などAIを補助的に利用している。しかし、自分の意見や思いが欠けているため、最終的には制作した社員が加筆修正している。
- ・業務の中で積極的に利用することで、プログラマの働き方に変化が起きている。プログラマはコードを書かなくなり、AIで生成するための適切なコメントを書くようになった。
- ・授業でAIを利用する時には、学生に単にプログラムの知識を教えるだけでなく、業務の理解やデータモデリングの知識を併せて学ぶことが必要になります。また、ユーザーフローを学ぶことで、学生は課題の全体像を理解し、AIに対して適切なプロンプトで指示や質問ができるようになるのは。
- ・学生は、興味を持って最先端技術に触れ、積極的に利用しているのですが、先生が授業等で新しい技術を教えるだけでなく、学生が教える側になり授業を行ってはどうか。それにより、より深い学びを得ることができ、学生と共に新しいカリキュラムを作成することが可能にあると思う。
- ・AIは伴走型の先生と考えAIが提示する内容に対してさらにプロンプトを投げかけることで、新たな情報や視点を得ることが出来る。学習を進めるサポートとして活用するのは、非常に効果的である。

【活用】

AIを活用したプログラムの流れ

・1年生のプログラム授業

① 前期授業：HTML & CSS実習・JavaScript実習

あえてAIを使わず、問題を処理する構造的な考え方(アルゴリズム)を中心にレクチャー。教員が1行ずつ解説しながら、JavaScript言語のプログラム自体に慣れるように反復練習。

② 後期授業：JavaScript実習

AIの利用の仕方やプロンプトの記述方法などをレクチャーし、学生個々が制作したプログラムにおいて、エラーの原因と修正方法を見つけるために補助的な役割とし活用。グループになって、AIの活用の仕方を共有する工夫。

・2年生のプログラム授業

① 前期授業：サーバーサイドプログラミングⅠ

データ設計やデータベース操作を中心に授業を進め、AIを活用して、データベースへのアクセス方法やPHPエラーなどの修正を行い、グループで生成されたプログラムの情報やプロンプトの内容などを共有し、知識を広げていく工夫。

② 後期授業：サーバーサイドプログラミングⅡ

プログラムの記述の仕方はもとより、全体的な業務フローを理解しつつタスクを分類しながらプログラム化することをレクチャー。全体の業務を理解する上でもAIを活用し、効率よく開発するヒントを得ながら個々で開発。

【議題2】

現2年生は27名中7名が内定。未内定者の8割は「Webデザイナー」を目指しています。

Webデザイナーの求人募集をしている企業の多くは、ポートフォリオ(作品評価)を一次選考している場合がほとんどで、二次選考に進めず苦戦しています。

採用担当者のポートフォリオ審査における作品評価のポイント、また、何を判断基準にしているか？

ポートフォリオを作成する際のポイントやどのようなことに気を付けたいのかアドバイスをお願い致します。

【意見】

- ・人事採用担当は、時間的な制約や応募者数の多さから、ポートフォリオを細部まで確認できない。
- ・求めているスキルセットや経験と、学生のポートフォリオの内容が一致するかどうかは、ポートフォリオだけでは分からない。
- ・企業の文化や価値観に適應できるかどうか？受けたい会社をしっかりと理解しているかが大切。
- ・ポートフォリオ(作品)だけでなく、チームでの協力や適応力など、学生の人間性にも注目している。

【活用】

・従来の進級制作授業のポートフォリオの最終ページに、学生個々の強みやアピールポイントを強調する自己紹介シートを追加し、展示会にて発表。

・ポートフォリオには、作品だけでなく、①その課題の目的や背景も入れ、②その課題に対して、どのように考え、③どのような工夫をして成果を出したのかを入れることを授業でレクチャー。

・短時間で判断されることを考慮し、「簡潔なタイトル」や「長文を避け、要点を簡潔」に伝えることを授業で指示。

・次年度は、1年生「UI/UX実習」の最終授業でポートフォリオの制作指導についてシラバスに追加。

・エンジニア希望学生は、ポートフォリオとしてGitHubを活用。GitHubリンクを履歴書に組み込むことを指導。さらに次年度は、授業の中で、リポジトリの整頓と説明を例文に交えて説明し、README.mdの作成やコードのコメント(コードの意図や背景を説明)の仕方などレクチャー予定。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Web業界で活躍できるWebクリエイター育成のために、下記を踏まえた実習を企業と連携して行い、Web業界で必要なディレクションやWeb制作技術などの実践的能力を養うことを基本方針とする。

①クライアントの要望をヒヤリングするためのオリエンテーションから企画制作、モックアップ(外観デザインの試作)、最終の各段階で企業へのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力の向上につなげる。

②クライアントの要望に応じた企画立案ができるように、授業と実習を通してWeb制作会社で行われているマーケティング・調査分析の仕方について実践的な知識を習得する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① Web制作企業から実案件(クライアントの要求)を元に課題が提示され、Webワークフローの基づいて、企画提案・モックアップ制作・Webサイト実装・プレゼンテーションの実務能力を学ぶ。企画・モックアップ、実装、最終のフェーズごとにクライアント企業様にプレゼンテーションを行い、企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。
- ② コミュニティサイトを運営する企業から既存サイトを使った課題が提示され、ユーザビリティ評価、マーケティング観点より既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	<p>Web制作企業複数から実案件(クライアントの要求)を元に下記の課題から1人1課題を選択。</p> <p>①「MTG作成・会議システムZION-MEETのランディングページ制作</p> <p>②株式会社タイムマシンが運営しているイヤホン・ヘッドホン専門店「e☆イヤホン」ECサイトのリニューアル提案</p> <p>③名刺管理サービス「QuickCard」のランディングページ制作</p> <p>④3歳未経験から始められる初心者向けキッズダンススクール「リアクションダンススクール」ランディングページ制作</p> <p>⑤全国各地の魅力的なスポットにまつわるミッションをクリアしながら、その地域を知ったり、その地域とゆるくつながったりすることを楽しむサービス「TripQuest」のスペシャルサイト制作</p> <p>企画・モックアップ・実装までのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。各ステップごとに企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。</p>	<p>①株式会社ZION</p> <p>②株式会社エクステンジ</p> <p>③株式会社サンシーア</p> <p>④株式会社リアクション</p> <p>⑤合同会社Nenriki</p>
ユーザビリティ&アクセシビリティ実習	<p>以下の課題2つに取り組む。</p> <p>①【課題1】</p> <p>自社運営している事業サービス下記のサイトをチームでユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し、UI改善やコンテンツ提案、導線の工夫等の提案</p> <p>・「しゅみの森ページ」</p> <p>https://www.shuminomori.jp/higashi-shinjuku/</p> <p>最終プレゼンでは、学生6チームよりプレゼンテーションを行い、企業から評価アドバイスのフィードバックを受ける。</p> <p>②【課題2】</p> <p>「若者の居場所、しゅみの森」サービス提案。</p> <p>若者(学生を含む)が、継続的にしゅみの森を利用したいと思えるサービスをデザインする。</p> <p>・「しゅみの森ページ」</p> <p>https://www.shuminomori.jp/higashi-shinjuku/</p> <p>最終プレゼンでは、学生6チームよりプレゼンテーションを行い、企業から評価アドバイスのフィードバックを受ける。</p>	<p>①株式会社NSグループ</p> <p>②株式会社マムズ</p>

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育課程編成委員会での意見やWeb業界の動向等を踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能及び、教授法や教育的資質に関する下記①～③等の研修を、教員研修規程に則って行う。これまでは、Web制作関連団体が行っている研修の受講が主であったが、将来はWeb制作会社や団体から講師を招いたものや教員がWeb制作企業内で制作業務を担当するなど、Webデザイン科独自の研修なども計画的に行う。

①今後も益々利用者のネット環境が多様化・複雑化しているなかで、ユーザーに最適なWebサイトを制作するのに必要な最新の知識、技術、技能に関する研修。

②多くのWeb制作会社が注目しているユーザーが体験を通して新しい価値を生み出す「ユーザエクスペリエンス」の必要性和、それらを向上するための知識、技術、技能に関する研修。

③変化する学生(気質)に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習(ファシリテーションスキル)等の教育的資質に関する研修。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	TOKYO CREATIVE COLLECTION	連携企業等:	株式会社ビビビット
期間:	令和6年09月10日	対象:	学科教員
内容	デザインがもたらす競争力を共創するための展覧会		
研修名:	Maker Faire Tokyo 2024	連携企業等:	株式会社オライリー・ジャパン
期間:	令和6年09月22日	対象:	学科教員
内容	Maker Faireは、地上最大のDIYの展示発表会		
研修名:	自分を、そして世界をアップデートする ～SDGsという問い～	連携企業等:	一般社団法人イマココラボ
期間:	令和6年10月04日	対象:	学科教員
内容	2030SDGsゲームを通して、SDGsを表面的に「知る」を超えてSDGsの本質を「体験」から理解する		
研修名:	ニュースを伝える情報デザイン	連携企業等:	日本新聞博物館
期間:	令和6年11月06日	対象:	学科教員
内容	「ニュースを伝える情報デザイン～インフォグラフィックスと新聞整理の世界～」展示		
研修名:	Web担当者Forum ミーティング 2024 秋	連携企業等:	株式会社インプレス
期間:	令和6年11月19日	対象:	学科教員
内容	Web業界における必須知識。最新トピックを押さえる講演。		
研修名:	デザインガイドライン/デザインシステム	連携企業等:	株式会社ミツエーリンクス
期間:	令和7年3月13日	対象:	学科教員
内容	デザインガイドラインやデザインシステムの必要性を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和6年8月7・9日	対象:	新人教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年8月20日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する		
研修名:	「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」	連携企業等:	株式会社Weness
期間:	令和6年8月29日	対象:	全教員
内容	『教員が疲弊しない』中退防止法を考察する		

研修名:	「高校生を取り巻く入試環境とこれからの入学生に求められる学生指導とは」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年9月19日	対象: 全教員
内容	データから見る入試環境と専門学校進学者層への影響と新入生の実態と効果的な指導を理解する	
研修名:	「学校における合理的配慮」	連携企業等: 東京都私学財団
期間:	令和6年12月23日	対象: 新任教員
内容	自分らしく学ぶことを促す人権尊重の第一歩として学校対応すべき事例を交えて学ぶ	
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	インクルーシブ・リーダーシップ研修～多様性を包括するマネジメント	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	令和7年08月12日	対象: 学科教員
内容	多様化の進む組織において、個を尊重し、個の力を活かして成果につなげるリーダーシップの発揮の仕方を学ぶ	
研修名:	ワイヤープレートとモックアップデザイン	連携企業等: WebZoo
期間:	令和7年12月	対象: 学科教員
内容	ワイヤープレートとモックアップデザインの用途と違いの理解を学ぶ	
研修名:	地域創生、まちづくり	連携企業等: 一般社団法人イマココラボ
期間:	令和7年12月	対象: 学科教員
内容	社会の問題を意識しながら、サービスデザインを生み出すための知識を身につける	
研修名:	Webのトレンド、先端技術	連携企業等: ミツエーリンクス
期間:	令和7年12月	対象: 学科教員
内容	2026年に向けたWebトレンド、アクセシビリティなどを学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	「教授法研修」	連携企業等: 株式会社ビーフォーシー
期間:	令和7年8月20・22日	対象: 新任教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する。	
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等: 株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和7年8月8日	対象: 新任教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。	
研修名:	「卒業生調査の分析結果」	連携企業等: 株式会社応用社会心理学研究所
期間:	令和7年8月28日	対象: 全教職員
内容	卒業生調査の分析結果から、本校の課題を明らかにすると共に対策を検討する。	
研修名:	学校教育法等の改正に伴う各専修学校における対応	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和7年9月18日	対象: 全教職員
内容	令和8年4月施行の学校教育法の改正ポイントを理解する。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1) 学校関係者評価の基本方針		
本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、画像情報関係団体、地域住民、Web制作企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やWebデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、Webデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2)学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3)教育活動	教育目標・教育人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5)学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6)教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8)財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11)国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍後に退学率が上昇したことに対して、組織的な対応の必要性について意見を頂いた。コロナ禍により日常のコミュニケーション機会が失われたことが理由の一つと考えられることから、令和6年度は次の取組みを行った。

外部講師を招き、「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」というテーマで、組織的な学生対応に関する全体研修会を実施した。また、キャリアセンターを中心に個別対応の充実を図り、個別面談の機会を増やす取組みを行った。結果として、前年よりも学校全体の退学率の低減に繋げることができた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鈴木 周祐	株式会社スタジオぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
宮内 舞	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
大曾根 良孝		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	父母
田野 滋子		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	父母
森 清子		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	父母
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
伊藤 凜		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
小倉 昊太郎		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	在学生
葛巻 沙織		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
埜村 萌花		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、Webデザイン科の教育成果として、前期は「授業成果発表会」を、後期は、「進級・卒業作品発表会」に来場を促し、学科ブログで学科での取り組みを広く公開することによって、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3)教職員	組織図、教職員人数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6)学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.jec.ac.jp/>

公表時期: 毎年4月に更新

授業科目等の概要

(工業専門課程 Webデザイン科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備行う。 ① キャリア（職業人生）を理解して就職活動の動機を得る。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール（文章・台本）に仕上げる。 就職活動に必要な各種情報学ぶ。	1 前	30		○	△		○			○	
2	○			企画書制作&プレゼンテーション	企画立案から企画書作成までを体験しながら、特定の目的を達成するために、市場やターゲットの調査と分析の仕方、企画のアピールポイントをクライアントに理解してもらえるような企画書の作成を学びます。さらに、企画を実現するための効果的なプレゼンテーションスキルを学ぶ。	1 前	60		○	△		○			○	
3	○			Webデザイン技法	Webサイトを作る上で必要なサイトの種類や特徴、サイト設計、情報整理、ページデザイン、画像と色彩、レイアウト、制作フローなど基本的なWebデザイン知識を学ぶ。	1 前	30		○	△		○			○	
4	○			チーム制作Ⅰ	チームワークに必要なコミュニケーションスキルについて演習を通して学ぶ。信頼や責任を基本に「メンバーシップ」の心構え、チームの目標達成のために、他のメンバーと協力しながら、主体的に取り組むことの大切さを学ぶ。	1 前	30		○	△		○			○	
5	○			HTML&CSS実習	W3C規格に準拠したHTML5、CSS3を使ったコーディングを理解し、Webサイトを制作します。 Web標準実装の際に抑えておくべきポイントやノウハウを修得する。 また、スマートフォンやタブレットなど最新のデバイスに最適化されたサイト制作の技術としてレスポンシブデザインを学ぶ。	1 前	120			△		○			○	
6	○			色彩演習	色に関する理論や実践的な知識を学ぶ。色の組み合わせや配色の基本、心理学的な影響、文化的な背景など、色を理解するための幅広い知識を身に付け、色彩検定の取得を目指す。	1 前	30		○			○			○	
7	○			UI・UX実習	ペイント系ソフトウェア（Photoshop）の基本操作を修得し、フォトレタッチやWeb画像素材、Webページのユーザインターフェースの制作を行う。ドロー系ソフトウェア（Illustrator）の基本操作を修得し、ベクトル画像の制作について修得する。さらに、Figmaを使ってWebサイトやモバイルアプリのUIデザインのモックアップ作成を学ぶ。 （使用アプリケーション：Photoshop, Illustrator、Figma）	1 通	120			△		○	○		○	

8	○		JavaScript実習	ECMAScript2015以降に準拠しているJavaScriptを使ったプログラミングを学ぶ。基礎的なアルゴリズムの考え方、実際のWebサイトで活用できる技術を身に付ける。	1通	90		△		○	○		○				
9			イラストレーション	イラストを描く上での基礎的な画材や紙の扱いを学習し、イラスト作品を制作する。さらに平面や立体など既成概念にとられないさまざまな技法を学び、発想や表現の幅を広げられる作品の制作を目指す。	1通	60		△	○		○					○	
10	○		サイト設計	Webサイト構築のワークフローと、Webサイトを制作する過程でつくられる各種ドキュメントの作り方について演習を通して学ぶ。	1後	30		○	△		○					○	
11	○		Webアプリケーション制作Ⅰ	① Node.jsなどを用いて開発環境を構築する。 ② Reactの基本機能を理解しアプリケーション制作を学ぶ。 ③ GitとGitHubを理解し開発時に適切に利用方法を学ぶ。	1後	30		△		○	○					○	
12	○		情報デザインⅠ	デザイン思考を活用して、5つのプロセス（共感する・絞り込む・発散する・試作する・テストする）を体験しながら、実践的に学ぶ。 ユーザーが求めているものは何か？を考え、ユーザーのインサイトを発見し、課題設定やプロトタイプ作成行い、イノベーション実現のプロセスを学ぶ。	1後	90		○		△	○					○	
13	○		進級制作	Web制作企業から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、Webワークフローに沿って、企画提案・モックアップ制作・実装・プレゼンテーションを体験しながら実務能力を学ぶ。各フェーズにクライアント企業に向けてプレゼンテーションを行い、アドバイスやご意見を受けながらWebサイト制作を行い、商用のWebサイトを制作できる実務能力を身につける。	1後	120		△		○	○					○	○
14	○		写真撮影・映像演出技法	写真撮影：カメラの使い方、写真撮影に関する知識を学び、広報誌やWebサイトに使用される写真を撮影するための実践的なテクニックを学ぶ。 映像演出技法：映像編集ソフト（Premiere、AfterEffect）を使ってサービスプロモーションを目的とした広告などの映像制作を行う。	1後	60		△		○	○					○	
15	○		Webライティング技法	Web媒体を活用した伝わる文章を理解し、ライティングスキルの必要性を理解する。相手にとって読みやすい文章、わかりやすい文章の書き方について演習を通して学び、人に伝わる文章を学習する。	2前	30		△	○		○					○	
16	○		Webアプリケーション制作Ⅱ	① チームでオリジナルアプリの企画を行い、Webアプリ開発フレームワークを利用し制作する。 ② GitとGitHubを利用し、バージョン管理とグループ内での共同開発を学ぶ。	2前	90		△		○	○					○	

17	○		情報デザインⅡ	①情報デザイン初級の資格取得を目指す。 ②インタフェースおよびインタラクションのデザイン手法について学ぶ。ユーザーにとって使いやすいインタフェース、インタラクションを提供するためのデザイン手法を学ぶ。	2 前	60		△	○		○		○	
18	○		チーム制作Ⅱ	目標達成に向けてメンバーを率先垂範する「リーダー」としての役割を学び、チームマネジメントのあり方やポイントを理解し、成果を上げられるチームの仕組みづくりと推進力について、ワークを体験しながら実践的に学ぶ。	2 前	30		○	△		○		○	
19	○		ユーザビリティ&アクセシビリティ	ユーザビリティとアクセシビリティを考慮したWebサイト制作スキルを持ったWeb業界で活躍できる人材育成の育成を行うために、下記3つの企業課題にチームで取り組む。 ① チームで、ユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ② JIS8341-3を学びながら、Webアクセシビリティの現状と問題点の理解を深める。 ③ チームでサービス提案を行う。	2 前	150		△		○	○		○	○
20	○		サーバーサイドプログラミングⅠ	仮想環境であるDockerを利用しアプリ開発、サーバー構築方法を学ぶ。 ① PHPフレームワークのLaravelを使って簡単なオブジェクト指向プログラミングを習得し、サーバーサイドプログラムを使ったシステムを制作する。 ② Webサーバーの仕組みを理解し、環境設定方法を学ぶ。	2 前	60				○	○		○	
21	○		卒業制作	2年間の集大成として、Webを商用で必要としている企業や店舗、学校などをクライアントとし、学生個々の制作ジャンル（Webサイト、スマートフォンアプリ、Webシステム、ゲーム等）に沿った作品を制作する。クライアントの要求に応じて、事前調査、コンセプトメイキング、企画書制作、ユーザビリティ評価、確認、納品、最終プレゼンなど、実践的なWebクリエイターとして、一連の制作工程を踏まえた制作を行う。	2 後	150				○	○		○	
22	○		関連法規	Webデザイナーに必要な法律知識を学ぶ。著作権をはじめとする知的所有権、個人情報法、刑法の業務妨害などについて、報道等で取り上げられた裁判の事例やワークを交えて学ぶ。	2 後	30		○	△		○		○	
23	○		Webマーケティング	Webマーケティングを取り巻く外部環境・市場動向や、ソーシャルメディア連携などによるWebマーケティング、企業におけるソーシャルメディアの活用方法などWebサイトの戦略的なビジネス活用について学ぶ。	2 後	30		○	△		○			○
24			Webディレクション	スケジュール管理、リソース管理、コスト管理、運用管理などを含めて成果を上げるディレクターとしての役割であるディレクションの仕方について学ぶ。	2 後	30		○	△		○			○

25	○		広告デザイン	印刷メディアの広告表現デザインや、CMなどの広告映像の表現、Webを使った広告表現など実際の広告具体例を見ながら広告の表現技術を学ぶ。	2 後	30		○	△		○		○	
26	○		サービス運用	Web解析ツールを活用してWebサイトのアクセス状況の分析方法を修得する。Webサイトの価値や運用効率の向上などのクライアントに提案にするための実務能力を習得する。	2 後	60		○	△		○		○	
27	○		サーバーサイドプログラミングⅡ	サーバーサイドプログラムを動かすための環境を整え、複数のステップ演習を通してPHPプログラム/CakePHPプログラムについて学びます。同時にデータベース（MySQL）を使った実践的な課題を行う。CMSツールWordPressをサーバーにインストールする方法から、サイト構築のやり方を実践的に学ぶ。	2 後	60		△		○	○		○	
合計					27	科目	1710 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。